

## 1 学力調査等からの実態把握

### (1) 子どもの学力と学校運営の状況

- ・子どもの学力はバランスがとれてきているが、全体的低い傾向にあり、学習の基本となる語彙力、読解力に課題があると考えられる。
- ・学校の運営状況について、保護者の満足度は高くなり、職員の意識も高い。ただ、基礎学力に課題を感じている教職員が多い。
- ・学力層はD層が約半数を占めA層が少ない傾向にある。
- ・生活意識調査では、勉強が好きと答える子が多く、勉強も分かると答える子が多いが、調査結果は学力に課題がある。
- ・学習意識調査でも、学習が好きと答える子が多い。学習に興味があり、取り組みも真剣であるが、理解できない言葉が問題文にあると正しく解けない傾向がある。

### (2) 学力状況の経年分析

- ・生活意識や学習意識では市の平均を上回る学年が増えてきているが、中学年は自尊感情が低い傾向がみられ、学力の伸びにも影響が出ていると考えられる。
- ・読書時間や家庭学習の時間が市の平均に比べて短い傾向があり、指導の重点化を図る必要がある。

### (3) 学校の状況・地域の実態

- ・外国につながる子どもが約50%在籍し、多くは日本生まれであるものの、家庭内では母語を使っている実態がある。従って日本語の語彙の獲得量が少なく、情報も少ない。そのため、完答を求める問題文になると誤答が増える傾向がある。
- ・外国につながる子どもの多くの保護者が日本語に課題を抱えている。分からないことがあっても家の人に教えてもらう機会が少なく、家庭学習の習慣化にも課題がある。
- ・地域行事等に参加している子どもが、市全体と比較して少ない傾向がある。多くの地域の方と関わることで得られる知識や情報、それを処理する経験等が少なくなる心配がある。
- ・地域の協力を得て、放課後学習教室などを設置し、子どもの家庭学習の補完に取り組む必要がある。
- ・地域の学校に寄せる期待は大きく、子どもに対する期待も大きい。

## 2 今後の方向

### (1) 最優先課題

- ア 語彙量が少なく、言葉が課題となって学習効果が上がらない子どもに対し、少人数指導や国際教室の担当者が授業に積極的に関わり、一人ひとりにきめ細やかな指導を行う。
- イ 週3回、朝の1校時前に朝自習や読書の時間を設け、国語や算数・読書を中心に基礎学力の定着を図る。これにより、語彙を増やし、ことばによるイメージを広げる力を養う。
- ウ 重点研究は『言語活動』に焦点をあてた取り組みを中心に、指導力の向上を図る。
- エ 地域ボランティア団体と連携して、放課後学習教室や夏休み学習教室等を設置して、子どもたちの学力向上と保護者啓発に努める。
- オ 幼保小中の連携・交流を推進し、小1プロブレム、中1ギャップの解消に努める。

### (2) 学力向上重点目標「中期学校運営目標」 平成26年度～平成27年度

- ア 徹底した少人数指導によって、「伝え合う力を育む」ための言語活動や読書活動等の充実を図り、主体的に語彙を獲得する姿勢を育てる。
- イ ねばり強く学び、自ら高めようとする子どもを育てるために、全職員で子ども一人ひとりを見つめ、見守り、指導する。
- ウ 子どもたち一人ひとりの「わかった・できた・つくれた」等の学ぶ喜びや楽しさが、より実感できるよう学習活動を工夫・創造していく。
- エ 子ども一人ひとりの違いを「よさ」として認め合い、互いに尊重し合い、共に生きようとする心情や態度を育てる。
- オ 子どもたちの健やかな育ちを願い、地域と連携して「まち」と共に歩む学校づくりを推進する。

### 3 平成26年度 具体的方策

- 全職員で、子ども一人ひとりを見守り、指導・支援する。
- 学校・家庭・地域・行政と連携し、子ども一人ひとりを育む。

#### (1) 教職員一人ひとりの取り組み

##### ア 進路・学力保障

- ・ 言葉からイメージ化できなかつたり、文脈を理解できない子どもが多い実態をふまえ、できる限り具体物を用意したり、分かり易いことばを使ったりする等、授業改善を図る。
- ・ 算数や国語等は、少人数指導を徹底し、一人ひとりの課題に沿った学習環境をつくる。

##### イ 伝え合う力を育む指導の工夫

- ・ ことばの課題を前提にして、学習や生活に困難を感じないように、自分の思いを伝えたり、相手の考えを理解したりして、他者との豊かな関わりをつくる機会を増やしていく。
- ・ 重点研究での「言語活動」の研究を生かし、実践を通してことばを使って自己と他者とのよりよい関係を築く。
- ・ 日常生活のあらゆる場面をとらえ、適切な言葉遣いを指導し、伝え合う力を育む。

#### (2) 学校組織としての取り組み

##### ア 全教職員による取り組みの具現化

- ・ 飯田北いちょう小学校の全ての教職員が関わり、少人数指導等学習指導体制の工夫により、一人ひとりにきめ細やかな関わりをもち、学力の向上を図る。

##### イ 研究・研修の充実

- ・ 探求場面において具体的な活動にことばを合わせ、友達同士や教職員とやり取りすることで、語彙を増やしたり、学習内容のイメージ化を図ったりした学習方法を考え、学習内容の理解を深める。

##### ウ 個に応じた指導の工夫

- ・ 「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用とチャレンジによる発達段階に合わせた取り組み、放課後学習教室・夏休み学習教室等による学習補完を通して、学習内容の定着と学力の向上を図る。
- ・ 外国につながる子どもが全体の約50%在籍している現状を常に頭におき、違う言語環境、文化、習慣、宗教等を有する子どもが安心して学習できる多文化共生の学校づくりを推進する。

##### エ 学校・家庭・地域の連携

- ・ 幼保小中高の縦の連携とともに、それぞれの発達段階で学習支援や生活適応支援などに関わるボランティア・支援団体・大学等研究機関のアドバイザー・公的機関との連携を更に充実させ、子どもの成長を多くの人によって支えていく。
- ・ 学校からの配布物にはルビをふり、重要なものは翻訳したり通訳者をつけたりして確実に伝える。また、保護者が大勢参加できる学校説明会やPTAの活動を計画する。

##### 基本的な生活習慣の確立

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」の運動をはたらきかけ、規則正しい生活習慣の実践を推進し、食育や保健活動等を通して、家庭の教育力の改善に努める。

##### 学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

- ・ 横浜市学力学習状況調査、授業評価(重点研究会・授業参観)、学校評価(学校説明会・まち懇・教育評価アンケート)を通して、活動を振り返る。